

その他、日常的な活動  
30名のスタッフが在籍

町内掲示板を設置

9月には菅の台6丁目自治会の依頼を受けて、町内掲示板を5基設置しました。これは須磨区の「広報掲示板設置等補助金制度」を利用したもので、本体はアルミ製、アクリルの引き戸が付きさらにカギもかかるという立派なものです。大きさは高さ1.8mで掲示板は1.23m×0.93mです。1基当りの設置金額は約10万円です。これで、地域の情報がよりスムーズに流れるものと期待されています。



リサイクルショップのご案内

【アイテム数2000以上】

活動拠点に持ち込まれたより良い物を大事に使うためにショップ経験豊かなスタッフが整理し、選びやすくしました。食器、家具、家電製品、オーディオ機器など掘り出し物が満載です。



【リサイクル自転車】

放置された自転車は条例に基づき神戸市が一か月間保管し、その後売却処分されますが、このたび約250台を買い受け、皆さんに提供することになりました。

自転車メーカーで働いていたスタッフが念入りに整備し、安心して使っていただけます。もちろん防犯登録(500円)も取り次いでいます。

価格は1台4,000円より。いわゆるママチャリからスポーツ車まで揃っています。

今年の役員をご紹介します

- ◎理事長 在里 俊一
- ◎副理事長 江川 豊
- ◎理事(事務局長) 藤井 義隆
- ◎理事 吉岡 良成
- ◎理事 本岡 美智子
- ◎理事 迫田 志津子
- ◎理事 阪本 修
- ◎理事 畑瀬 忠雄
- ◎理事 辰巳 明久
- ◎理事 横山 和代
- ◎監事 武貞 健治

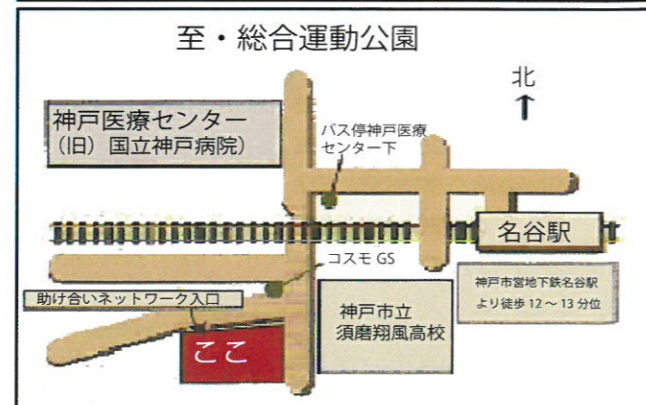
・江川豊副理事長よりのご挨拶

阪神淡路大震災後、特定非営利活動法人神戸西助け合いネットワークを理事長が立ち上げられ、NPO法人として11年が経過致しました。私達はNPO法人という名に恥じない様、当組織に参加された方は一丸となって、地域住民の支援活動に携わって参りました。今後も私達は地域住民の為、特に高齢者、障害者の手助けになる様努力いたしますので、何卒宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

特定非営利法人(NPO法人)  
神戸西助け合いネットワーク  
理事長 在里 俊一

〒654-0155 神戸市須磨区西落合2丁目1-6  
TEL078-795-3786 FAX078-795-4498

〒654-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1-6  
コムスタ神戸2F リサイクル工房あずま内  
TEL/FAX 078-795-3786



■私たちの活動にご協力ください

ゆうちょ銀行 振替口座 00960-7-108420  
名義：神戸西助け合いネットワーク

【賛助金年会費】

個人会員 一口 3,000円  
団体会員 一口 10,000円  
(賛助金は1口以上、何口でもお受け致します)

NPO法人 神戸西助け合いネットワーク  
私たちの活動ニュース

平成25年度活動報告  
第12号  
平成26年4月1日  
発行人：在里 俊一  
特定非営利活動法人  
神戸西助け合いネットワーク

平成25年の主な活動

ごあいさつ



阪神淡路大震災の年の夏から組織的な活動を始め今年で19年、さらにNPO法人化して11年が経ちました。被災者の支援活動をベースとして、その後お年寄りや障害を持つ人々など、いわゆる社会的弱者といわれる人々へのサポート、さらに環境保全活動にも取り組んできました。

本文にもありますが、私たちの拠点がある「須磨ニュータウン」でも高齢化が進み、今後サポートを必要とする人々が大きく増えることは明らかです。

本来は自分自身や身内だけで完結する「自助」が理想ですが、一人暮らしが増えつつある中では困難です。また公的な支援も、すべての人々にきめ細やかなサービスを行うことは至難の業です。そこで、地域でお互いが助け合う「共助」が求められますが、かつてのニュータウンはこの点において、その基盤であるコミュニティがどうしても希薄になりがちです。

私たちは高齢や障害など日常的に支援を必要とする人々へのサポートを行うとともに、「共助」ができる地域、すなわちコミュニティ作りの支援も併せて使命(ミッション)として取り組んでいきます。

これからも引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年2月

特定非営利活動法人 神戸西助け合いネットワーク  
理事長 在里 俊一

24時間テレビ「愛は地球を救う」  
福祉車両が贈られました

日本テレビ系列局が毎年展開している「24時間テレビ 愛は地球を救う」36回目の昨年分、皆様からの募金の活用方法のひとつとして福祉車両の贈呈があります。これは全国で200台のうちの1台、兵庫県内では私たちの団体だけで、車いすのスロープ付き軽自動車(福祉車両)が贈られました。この車両は2月13日から稼働しており、要介護・要支援や各種障害をお持ちの方々を自宅より病院や役所・銀行などへ送迎する車として活用しております。車体にはハトのマークと24時間テレビのロゴマークもありますので、町中で皆さんの目に触れることがあるかもしれません。大変多くの方々のご寄付による福祉車両です。その方々の善意にお答えするよう頑張ります。



## 軌道に乗り、順調に 発泡スチロールリサイクル事業

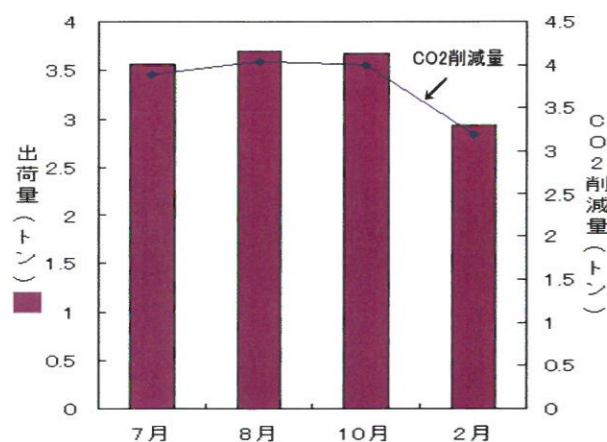
平成 25 年 4 月から、発泡スチロール梱包材を摩擦熱処理してポリスチレンインゴットとして再利用する事業をスタートさせました。

これまでも太陽光発電（2006 年）、家庭から出される使用済灯油のバイオディーゼル燃料化（2007 年）等、エコエネルギーの普及と循環型社会を目指して活動してきましたが、これらに続いて発泡スチロールを減容化する事で再資源として活用する活動にも取り組む事になったものです。

### 現状、3ヶ月で4トン処理、まだ余裕が

4 月から今年 2 月までの出荷量の推移はグラフの通り、昨年の稼働率はほぼ 100 パーセントでしたが、12 月は材料の供給が減ったこと、さらに 2 月には処理機の故障で作業を一時休止したため処理量が減少しました。その後、機器の修理を行うとともに大手家電量販店のデポや複数の流通団地との契約による材料供給増などで 1 カ月 3 トンのフル稼働に向いつつあります。

インゴットの出荷量とCO2削減量



### 障害者の就労とCO2削減の社会貢献

処理担当者には作業所（地域活動支援センター）から紹介された 2 名の障害者を雇用しており、彼らの社会参加にも貢献しています。

さらに発泡スチロールリサイクルにはCO2削減効果があり今までに 13.86 トンを処理したのに対してCO2削減量は 15.1 トンです。詳細は上記グラフをご覧ください。各地の流通センターに働きかけて梱包用発泡スチロールの回収に努め、稼働率を高める事で安定した事業とし、CO2削減の社会貢献を進めていきます。

## 着実に歩んでいます 介護関連事業

「介護ステーションたすけあい」がスタートしてまもなく 3 年、現在 34 名の利用者に対して 21 名のヘルパーが活動しています。

その活動の移り変わりは、介護保険法に基づく介護サービスとして、まず高齢者介護から始め、その後障害者自立支援法による移動支援、さらに同行援護の開始と、着実に歩んでいます。

### 移動支援と同行援護

一般的な介護サービスはご存じの方も多いことですが、「移動支援」は屋外での移動が困難な障害（視覚・四肢・知的・精神のいずれか）を持つ人たちの外出の手助けを行います。外出の目的は日常生活上欠かせないもののほか、余暇活動、冠婚葬祭など社会生活上必要な外出にも支援を行うものです。いっぽう「同行援護」は知的障害や精神障害など行動そのものに障害のある人たちへの支援で、いずれも認定を受けた方々向けのサービスです。

### 介護用品のレンタルと販売

このほどレンタル介護用品のカタログが完成しました。A4サイズ、表紙とも 64 ページ、カラー版です。須磨区内 8 カ所の「あんしんすこやかセンター」の介護相談コーナーに配置し、自由に持ち帰っていただけます。また私たちの事務所へお申し込みになれば、直接郵送いたします。必要に応じてご利用ください。



## 地域コミュニティ支援活動

### ケータイ塾

昨年度に 3 回実施した「ケータイ・インターネット塾」は 25 年度も須磨区地域提案型活動として認められ、25 年には 3 回実施しました。

昨年もお伝えしたとおり、これは高齢者を対象に、携帯電話が「宝の持ち腐れ」にならないように実施しているものですが、本来の目的に加えてもう一つ世代間交流という大きな成果が上がっています。

ケータイ塾のインストラクターとして、西区の流通科学大学情報フォーラム部の学生の皆さんにお手伝いいただいています。対して受講者は、まさに彼らの祖父母の年代。身内の中での「教えたり、教えられたり」はほとんどの場合がケンカに終わってしまうものですが、お互いが他人であるため忍耐強く、かつ和やかな雰囲気の中で進んでいます。また学生の皆さんにとっては、コミュニケーション力を身につけるよい機会です。この経験は就職や社会に出て役立つものになることでしょう。



### 引越し手伝い・不要品処分・

### 遺品整理・ゴミ処分と片付け

平成 25 年は夏から秋にかけて、例年を上回る依頼がありました。

その中で一番多いケースは、子供たちが独立して別居し、住まいには高齢者だけが残って暮らしてきた家族。親が一人になり、さらに施設などに移る際、引っ越しの手伝いや、家財などの処分が主な仕事です。

実際に白川台、北落合、神の谷、多聞台、菅の台、鈴蘭台など、かつてのニュータウンからの依頼が増えています。

現在は一戸建て住宅に住む人々からの依頼がほとんどですが、私たちが拠点にしている「須磨ニュータウン」では 5 階建てでエレベーターが設置されていない中層住宅に住む世帯が約 3000 世帯あり、今後はこれらの需要が増えていくことが予想されます。

### 「もちつき大会」のサポート

須磨ニュータウンがまちとして成熟してきた一つのあかしとして、自治会やマンション単位での「もちつき大会」が増えたことが挙げられます。特に最近では、地域コミュニティづくりがなかなか困難だったマンションでも行事として「もちつき」を行うところが増えてきたのは大きな変化です。

私たちは用具の貸し出しとともに、求めに応じて、もちの搗き方の応援も行っています。

その結果、昨年暮れには 10 件、年明けに 5 件と前年比 2 割以上の伸びを示しました。ただ貸し出す用具の数に限りがあり、また時期が限られるという点で限界があります。

しかし自治会や管理組合どうしの「ロコミ」のおかげで、私たちの存在が広く知られ、理解を得る恰好の PR 活動として大きな価値があります。

